

特定非営利活動法人 鞭杆協会 第 15 回通常総会 議事録

1. 開催日時 : 令和 6 年 11 月 4 日 (月曜日) 午前 10 時~11 時 15 分
2. 開催場所 : 東京都千代田区内神田 2 丁目 1-8
千代田区立スポーツセンター内 集会室 A
3. 出席者数 : 正会員総数 449 名のうち 336 名 (委任状の参加 324 名)
4. 審議事項 : 第 1 号議案 2023 年度 事業報告および決算報告 監査報告
第 2 号議案 2024 年度 人事
5. 報告事項 : 2024 年度 事業計画および予算案
6. 配布資料 : ①第 16 期(2023・令和 5 年度)事業報告書
②第 16 期(2023・令和 5 年度)決算報告書
③第 16 期(2023・令和 5 年度)監査報告書
④第 17 期(2024・令和 6 年度)人事について
⑤第 17 期(2024・令和 6 年度)事業計画書
⑥第 17 期(2024・令和 6 年度)活動予算書

7. 総会の成立および議長団の選出

出席者数 12 名、委任状 324 名、参加総数 336 名で、正会員総数の過半数を上回り、定款第 26 条の総会開催の条件は整い総会は成立した。

議長に足立宏光理事、副議長に高橋悦三理事、書記に事務局吉川智子氏が選出された。

総会議事録署名人として山本高弘理事と今浦美保氏が選出された。

8. 議事の経過及び採決

①第 1 号議案、2023 年度 事業報告および決算報告

楊崇理事長より事業報告書について、配布資料①に基づき説明があった。続いて、高橋悦三理事より決算報告書について配布資料②に基づき説明があった。

②監査報告

石川正浩監事より、決算が適正に行われていることを確認した旨の監査報告があった。

③第 2 号議案、2024 年度 人事

楊崇理事長より人事について、配布資料④に基づき説明があった。

④採決

第 1 号議案、第 2 号議案について質疑応答(要旨は第 9 項)を経て議場に採決を諮ったところ、満場異議なく承認された。

山本高弘理事が退任し、池内広司新理事が着任した。高橋悦三、足立宏光の両理事が専務理事に着任した。

⑤報告事項、2024年度 事業計画および予算案

楊崇理事長より事業計画書について配布資料⑤に基づき説明があった。高橋専務理事より活動予算書について配布資料⑥に基づき説明があった。

⑥報告事項などについての質疑応答

2024年度事業計画および予算案について、さらに協会活動全般についての質疑応答、意見交換が行われた(要旨は第9項)。

9. 質疑応答・意見など(要旨)

①第1号、第2号議案について

質疑(会員A): 収益について、過年度からの推移はどうなっているのか。

応答(高橋悦三理事): ゴールデンウイーク講習の収入が伸びた。受講料の値上げもあった。協会主催の講座の受講料について統一ルールを定めて改定したことで全体として値上げとなった。

応答(事務局 吉川智子): 収益増の要因は、特別突出しているものはないが、会員数が増えたことの貢献が大きい。

応答(楊崇理事長): 段級審査の受審者数も増えた。

質疑(会員B): 人事について。新たに専務理事が置かれたが、なぜ副理事長ではないのか。

応答(荒木ひとみ理事): 副理事長は理事長に並ぶ役職で、必要に応じて理事長の代行を行うもの。今回の人事では協会運営の実務を、より円滑に遂行するための体制整備を考えた。その結果、専務理事という役職を置くことにした。

質疑(会員B): 理事長が不慮の事態で職務ができなくなった場合はどうするのか。

応答(楊崇理事長): 不慮の事態が起きた場合は、その時に考えることになる。現時点ではそのように応えざるを得ない。

②報告事項(2024年度 事業計画および予算案)、その他について

・会報、広報活動について

会員A: 会報について、紙ベースからデジタルツールへの移行を予定しているか? 既に会員への情報提供ではLINEが活用されている。会報もメルマガやインスタなどの活用を考えても良いのではないか。

広報委員会の目的、役割も見直した方が良いのではないか。事務局の負担も大きく、ベ

ンガンワールドの業務に影響も出ている。

楊崇理事長：広報委員会などの委員会は発足して2年程経つ。実動していないところもあるので活動の方向を探り直す必要はある。ベンガンワールドの体制整備も考えたい。

高橋悦三専務理事：会員には高齢の方も多いので紙ベースの会報は必要。バックナンバーをWEB公開してはどうか。

会員B：会報には個人情報も含まれているのでWEB公開は会員専用ページを作るなど、慎重な配慮が必要。

雨宮隆太理事：自分が所属している学会のホームページは会員専用ページとして始まったが、今は公開している。

楊理事長：日本健康太極拳協会では会員専用ページを設けているが、あまり閲覧されていない。

石川正浩監事：会員専用のものと同時に、対外的な広報を考えていくべき。

会員B：会員専用ページのシステム作りには費用がかかるが、会員と非会員への広報を分けるツール作りのための初期投資と考えれば必要な出費。

荒木理事：必要性があっても担当する人力が無いのが現実。要求のすべてを理事が担うことはできない。実務遂行がスムーズに行えることを考えるのが前提。

楊理事長：協会の活動を外に見せる必要があるのでSNSの活用などが必要。動画アップは既に始めているが、担当を任せられる人がいれば考えていきたい。

荒木理事：教材の映像は以前はDVDだったが、最近はYouTubeでも発信されていて、観やすくてよい。だが、簡単にできるストレッチなど、もっと手軽に楽しく見られるコンテンツがあると良い。LINEで発信される情報も刺激になっている。

会員B：映像教材の利用目的は2種類ある。ひとつは学びを深めていくため。もうひとつは未習者にこういうものがあることを知らせるため。後者の目的のためには短くて簡単なものが良い。

楊理事長：今、2～3分の簡単な動画を作ろうとしている。

・給与について

会員C：管理費に計上されている人件費は少ないように感じる。事務局の給与を引き上げるべきではないか。

高橋専務理事：事務局の給与は時給で支払われている。決算書に記されているのは実働時間に応じて支払われた金額。予算案も同じ考えで計上した。時給単価は低い水準ではないと認識している。

・会員数、講習会受講者数の動向について

会員D：最近の会員数や講習会受講者数の動向についてどう感じているか？

楊理事長：会員数は協会設立当初に比べて半分ほどに減ったが、最近は増え始めている。講習会も増えている。以前は日本健康太極拳協会の会員がほとんどだったが、これが減少し、同協会会員以外の新しい層の人たちが増えている。

会員 D：自分の教室でも同じ傾向を感じている。他の教室も同じなのだと分かった。鞭杆を始めようという人は 50 代が多く、当初 50 代で始めた人が今、70 代になっている。最近、入門者が増えているということで若い 50 代の人が入門してきてくれることを期待している。

10. 議決の結果

第 1 号議案、第 2 号議案について質疑応答を経て、議長が両議案の承認を議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

報告事項(2024 年度 事業計画および予算案)および協会活動全般について、質疑応答、意見交換を終えて、議長は第 15 回通常総会のすべての議事について終了した旨を宣言した。

さらに退任となった山本高弘氏、新任となった池内広司理事の挨拶、楊理事長の閉会の挨拶があり、散会となった。

定款第 29 条に基づき、この議事録が正確であることを議長および議事録署名人 2 名が証します。

2024 年（令和 6 年）11 月 4 日

特定非営利活動法人 鞭杆協会 第 15 回通常総会
議 長 足立 宏光 ㊟
議事録署名人 山本 高弘 ㊟
議事録署名人 今浦 美保 ㊟